

環境から始めるSDGs 活動のヒントと事例

埼玉県環境産業振興協会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



一般社団法人
埼玉県環境産業振興協会
Saitama Industrial Waste Management Association



埼玉県 環境部

埼玉県の支援策

【埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度】



埼玉県では、環境分野のSDGsのゴールの達成に向けた取組を宣言し、一定の要件を満たす企業等の取組を県ホームページ等で発信し、支援しています。

・対象

埼玉県内に本社又は支社等を有し、県内において事業活動を行う企業、法人、団体、個人事業主

・宣言企業のメリット

- ✓ 県ホームページ等で環境分野のSDGsの取組がPRできます。
- ✓ 先行事例の情報収集や企業等のネットワークづくりができます。
- ✓ 地域での信頼獲得や新たな事業機会の創出につながります。
- ✓ 取組のPRで企業イメージが向上し、多様な人材の確保につながります。
- ✓ ビジネスの取引条件に対応できます。
- ✓ 社会的な課題への対応により自社の取組が深まります。

【手続きについて】

自社の環境SDGsの取組を見つめなおしましょう

■ ステップ 1 取組宣言書の提出

はじめに、取組宣言企業となるための「宣言書」を御提出ください。

宣言後、県ホームページの一覧表に企業等の名称、取組項目等を掲載します。



■ ステップ 2 取組報告書の提出

以降、原則1年ごとに進捗状況を確認し、「取組報告書」を御提出ください。報告後、報告いただいた取組内容、成果、PRポイント等を県ホームページに掲載します。



環境SDGsの取組を更に進め、継続しましょう

お問合せ：埼玉県 環境部 環境政策課
(電話：048-830-3019 メール：a3010-11@pref.saitama.lg.jp)

CONTENTS

- SDGs活動を目指して 2
- SDGsとは 3
- ここから始める環境SDGs活動
..... 5
- 産業廃棄物処理業界の
環境SDGs活動のヒント
..... 7
- 取組み事例 9
 - 株式会社タカヤマ様
 - シタラ興産株式会社様
 - 株式会社クワバラ・パンぷキン様
- 埼玉県の支援策 15
 - 埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度



SDGs 活動を目指して

当協会は、産業廃棄物収集運搬業と処分業の許可を受けている事業者等で構成される非営利型の法人です。産業廃棄物の適正処理・再資源化の推進と環境産業の振興を通じて、生活環境の保全と公衆衛生の向上とともに処理業者の地位向上を図り、循環型社会の構築に資することを目的としてしています。

大量生産、大量消費、大量廃棄の反省から、近年、循環型社会形成推進基本法とこれに基づく各種リサイクル法が制定されるなどし、廃棄物の流れもかつてとは大きく様変わりしております。

私たちが、こうした流れに対応すべく、排出事業者と連携し、3Rの推進に取り組んでまいりました。現在では「静脈産業」と言われる私たちの事業も、一歩進めて、廃棄物の受け手から再生資源の供給者として「環境産業」の一翼を担う責任があると考えています。そこで、本協会も平成25年度には名称を変更し、名実ともに「環境産業」の振興に寄与できるよう努めているところです。

当協会は、設立趣旨を実現しその社会的使命を果たすべく、埼玉県をはじめとする環境行政に常に協力してきました。今後もより良い社会の形成のために努力してまいります。

今回、我々が取り組むべき環境対策の活動のひとつとして「SDGs」を取り上げました。今後も環境産業振興のために、会員企業の皆様とともに積極的にSDGsを推進いたしたく、埼玉県環境部様、一般社団法人埼玉県中小企業診断協会様と本冊子を作成しました。

皆様の事業活動や環境対策活動の一助になることを祈念いたします。

一般社団法人 埼玉県環境産業振興協会

SDGsとは

地球温暖化が進むことで、今後豪雨災害や猛暑のリスクが更に高まることが予想されています。

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」より良い世界へ変革することを目指して、

- ① 貧困や飢餓、教育などの**社会**の課題
- ② エネルギーや資源の有効活用、働き方や不平等など**経済**の課題
- ③ 気候変動など地球**環境**の課題

という、3つの側面から捉えることのできる17のゴールを、自分事として、私達が事業活動や普段の生活から、少しずつ未来の子供たちに良い社会、地球を引き継ぐことができるように活動していくものです。



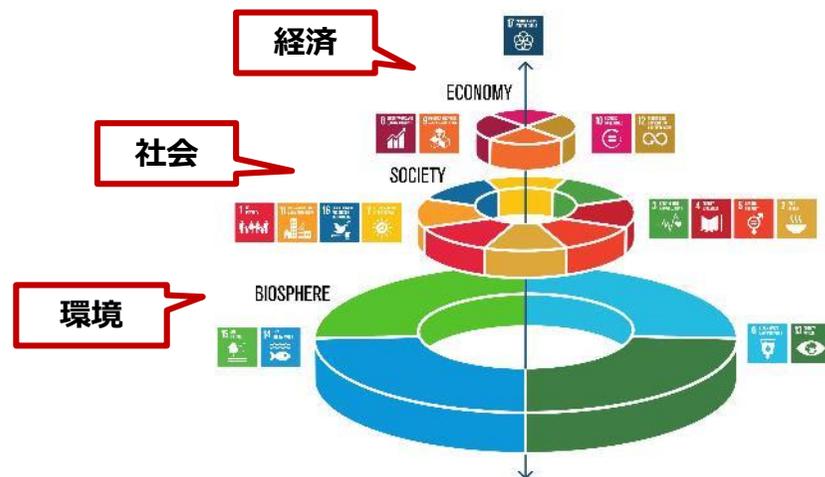
SDGsとは

埼玉県環境部から

SDGsは17のゴールのうち「12 つくる責任つかう責任」、「13 気候変動に具体的な対策を」など、9つのゴールは廃棄物問題、地球温暖化といった環境技術の課題に大きく関わっています。

下図で示されるように、SDGsは環境を基盤に持続可能な社会や経済を築くことを目指しています。

埼玉県環境部では、SDGsやパリ協定の採択、ESG投資の拡大で、企業等に環境配慮の取組がより一層求められていることから、一般社団法人埼玉県環境産業振興協会様をはじめとする関係団体様や企業様等の環境分野のSDGsへの取組を支援していきます。



出典：Stockholm Resilience Center

ここから始める環境SDGs活動

1. 実はすでに取り組んでいる「環境SDGs」活動

これから、SDGs活動に取り組もうとしている方も多くは必ずです。

産業廃棄物処理業界は、廃棄物をリサイクルやリユースするための処理を行う業界です。各産業から排出された廃棄物を焼却や廃棄するだけでなく、様々な分別や処理を行って、リサイクル可能なものはリサイクルし、廃棄するものをできるだけ減らすように変化してきました。

産業廃棄物処理業界そのものが環境の悪化を防ぎ、環境をより良くしていく業界です。

各社が行っている事業そのものが「環境SDGs」活動です。

自社では当たり前と思って行っていることをSDGsを通して見直すことで自社の業務に携わっていることに誇りを持ち、社員の皆さんのやる気につながっています。

- ・ 自社が行っているゴミの分別の意味を深く理解する
- ・ 廃棄物の処理コストを意識して作業している
- ・ ISO14001を取得、研修を受講した

等々



2. 事業活動の様々な場面でも取り組んでいる

あらゆる業界において、現在の事業活動の中で環境面の取組は、必要不可欠なものです。環境面に取り組むことは、コストダウンなどにつながります。下記のように既に取り組んでいる事項もあると思います。

- ①環境に配慮した収集・運搬車両や作業車の利用
- ②廃棄物の運搬
 - ・ 効率的なルートで回収する
 - ・ 廃棄物の種類ごとに分別して運搬する
 - ・ パレットを繰り返し使用する
- ③エコドライブを推進している
- ④廃棄物の再資源化



【 環境SDGsの基本 】



省エネ・省資源という環境視点をもって品質改善、生産性向上、稼働率向上などの現場改善を行なっていくと、結果として環境改善と経営改善が一緒に図られます。

⇒ 環境SDGsは

「5S」と省エネ・省資源が基本

5Sと省エネ・省資源は、皆様がすでに取り組んでいます。まずは、難しく考えないで、一緒にいまやっていることを、見直してみましょう。普通に思える事も他の人から見ると、とても良い活動だったりするんです。

下記の当てはまることはありませんか？

- ✓ 休憩時間は消灯している
- ✓ エコキャブ活動をしている
- ✓ 社内の照明をLEDに変えた
- ✓ 社内の紙は裏紙も使用している
- ✓ エアコンを省エネ型に更新をした
- ✓ 使い捨てプラスチック製品の使用を控えている
- ✓ デマンドコントロールで自社の電力を見える化している

等々

いくつか、当てはまりましたか？

このような、いままで行ってきたことも、環境SDGs活動の一部です。



産業廃棄物業界の環境SDGs活動のヒント

【産業廃棄物収集・運搬時のポイント】

1. 収集・運搬車両のエコ・ドライブ

- ✓ 収集・運搬車両や作業車両のエコドライブ
- ✓ 定期的な燃費検証
- ✓ 個人目標の設定
- ✓ ドライバーごとの運転の癖の把握
- ✓ ドライブレコーダーの設置

2. 運搬ルート効率化

- ✓ 曜日、年間での配送ルートの仮説と検証
- ✓ 効率的な運搬ルートの再設定を顧客先に提案

3. エコカーの導入

- ✓ ハイブリッド車や電動車両の導入
- ✓ 燃料電池運搬車両の導入

4. 運搬時の環境負荷の低減

- ✓ 収集・運搬時の5S
- ✓ 粉じん、臭気の防止

5. 車両洗車・清掃時の対応

- ✓ 洗車方法の見直し
- ✓ こまめな清掃 等



走行用モーター減速機
リチウムイオン電池
水素充填口
燃料電池を使った回収車
油圧ポンプ
ゴミ収集機構



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

省エネ、CO2排出量削減の取組は、7「エネルギー」や13「気候変動」につながります。



13 気候変動に
具体的な対策を



11 住み続けられる
まちづくりを

省エネ等を通じた排気ガスの削減の取組は、11「都市」、12「生産・消費」につながります。



12 つくる責任
つかう責任



3 すべての人に
健康と福祉を

運搬時の環境負荷低減の取組は、3「保健」、11「都市」につながります。



11 住み続けられる
まちづくりを



6 安全な水とトイレ
を世界中に

洗車方法等の見直しの取組は、6「水・衛生」につながります。

産業廃棄物業界の環境SDGs活動のヒント

【産業廃棄物処分時のポイント】



1. 分別処理の徹底

- ✓ 分別機械の導入
- ✓ 顧客の廃棄物分別を支援
- ✓ 最終処分量の削減・減容化に取り組む



11 住み続けられる
まちづくりを

分別処理徹底の取組は、廃棄物の削減を通じて、11「都市」、12「生産・消費」につながります。



12 つくる責任
つかう責任

2. 処分時の環境負荷を防止

- ✓ 中間処理、最終処分施設的环境悪化（粉じん、臭気、騒音、振動等）の防止
- ✓ 処理施設の業務状況の公表や施設見学の実施



3 すべての人に
健康と福祉を

処分時の環境負荷低減の取組は、3「保健」、11「都市」につながります。



11 住み続けられる
まちづくりを



4 質の高い教育を
みんなに

施設見学の実施は、4「教育」につながります。

3. リサイクル事業への展開

- ✓ 各種廃棄物の再資源化への取組
- ✓ プラスチックの再生など
新たなリサイクル事業分野への進出
- ✓ 廃棄物の固形燃料（RPF・RDF）化
- ✓ 廃棄物発電への原料の供給や自家発電の取組
- ✓ 有機汚泥・無機汚泥の再利用
（肥料などへの再資源化）



14 海の豊かさを守ろう

リサイクル事業への展開は、消費エネルギーの削減になる取組などは、7「エネルギー」、13「気候変動」につながります。



15 陸の豊かさを守ろう

海や森林の天然資源の持続可能な利用や海や森の生態系の保護につながる取組などは、内容により12「生産・消費」、14「海洋資源」、15「陸上資源」につながります。



株式会社タカヤマ

専務取締役 齊藤 康祐様
コントロール部 部長 久保 雅史様

「90%以上の社員がSDGsの取組を今後とも続けていきたい SDGsが部署を超えた共通言語になる」

■ SDGsに取り組むきっかけ

2016年頃、当社の関係者から世界の状況を知り、SDGsについて知りました。業界的にもやってみたら？というお話だったので、正直当社では難しいだろうというのが社長をはじめ最初の感想でした。

もともと、廃棄物処理業界は社会からのイメージは良いとは言えず、法律に縛られた事業でもあり、社員の肉体的負担も大きいです。そういうイメージから、信頼される廃棄物処理企業になるために、経営品質を高める努力をしてきました。

2017年になって、SDGsのことを社員全員の勉強会である「タカヤマアカデミー」で勉強してまいりました。SDGsが考えている世界の潮流と当社が進みたい方向性、行っている業務がSDGsの「良い環境」「良い社会」を作る運動であることが分かってきて、取り組むことに決めました。

■ SDGs活動のはじめの一歩

2018年まず、当社がSDGsの目標につな

る課題の抽出と課題解決のためのアイデアを考えるとところから始めました。SDGsコンパスに沿って、優先課題を明確にし、どのような活動を行っていけば良いか、今まで行っている活動はどのようなSDGsの目標に対応しているのかを落としていきました。社員130名から423件のアイデアが寄せられ、年間活動目標を設定しました。

その上で、2018年の46期経営計画にSDGs目標と活動計画を盛り込みました。この時点で、SDGsの実現は経営目標になりました。その後、環境活動レポートやCSRレポートの発行、目標の検証、個人目標の策定といったプロセスを経て、現在ではSDGsをベースにした経営が通常のものとなっています。

■ SDGs活動の内容

当社は、SDGsの取組を会社行動と個人行動とに分けて、それぞれ目標設定、検証を行っています。常に見える形にするようにしています。



社内執務室にある社員が取り組んだSDGs活動を記録した「SDGsの木」

今期48期の行動目標、取組として以下のよう定めています。

【CO2排出量の削減】

車両燃費の向上や電気使用量の削減、ペーパレスの推進、焼却重油の使用量削減を進めるために、会社行動としてエコカーの導入、電気フォークリフトの導入、電子化システムの導入等を実施します。個人行動としてエコドライブや節電、ミスの削減、顧客への電子化提案を進めます。

【地域との連携強化】

地域貢献活動として災害時の協力体制を構築します。各自治体と防犯・防災・災害廃棄物協力の体制を構築します。

【働く環境の向上】

コロナウイルス感染防止等、安全衛生対策の整った誰もが働きやすい職場環境を構築するために、会社行動として、リモート勤務や健康活動支援、障害者雇用を進めます。個人行動としては、日々のコロナ対策を進めるとともに、各種の同好会への参加や会社の支援制度の積極利用を促進します。

【環境貢献活動の充実】

環境貢献活動として、全社活動として清掃活動や間伐活動、キャップの寄付を継続します。個人行動としては、各種活動への参加やキャップの分別を進めます。

【個人活動のレベルアップ】

個人行動目標の設定とCSR委員会における個人目標に対する行動進捗を確認していきます。エコアクション、ISO、若タカ会といった各社内活動と連携して、個人目標の実現を支援していきます。



全社員のSDGs個人目標が毎年全社員に公開され、常に携帯

■ SDGsを取り入れたメリット

全社員のモチベーションアップにつながっています。当社では毎年従業員満足調査を行っています。2017年SDGsの勉強会をはじめた当初、SDGsに興味を持った社員は30%ほどでしたが、現在では90%以上の社員が「SDGsへの取組を継続していきたい」というまでに変わっています。SDGsを使った前向きな会社と自身の変化が、会社の使命の実現につながっていることを実感しているのだと思っています。

■ SDGsを定着させるための施策

当社では、経営課題としてSDGsに取り組んでいます。単なる環境対策として捉えるのはもったいないです。

全社員を巻き込んで取り組んでいくためのアイデアを募集してまいりました。そこで、具体的な会社目標や個人目標を設定し、成果を毎年見極めていく。

目標も成果も社員全員が見られるようにして、常に意識づけできるようにしていくことで、行動は変わってまいりました。現在、各拠点に日常とSDGsとのつながりを掲示して、推進のための年間目標ポスターの掲示、推進POPの掲示をおこなっています。業務車両にもSDGsのロゴを搭載しています。社外活動でもSDGsに関わるイベントへ積極的に参加しています。



業務車両のSDGsロゴ



社内コピー機の推進POP

■ 他社へアドバイス

SDGsを難しく捉える必要はありません。社会のためだけでなく、企業のビジネスチャンスです。企業活動と個人活動の両面から環境貢献、社会貢献につなげていければと思っています。

■ 会社概要

株式会社 タカヤマ
本社 埼玉県所沢市南永井37番地9号
創業 昭和33年1月 創立 昭和49年1月
代表取締役 齊藤 吉信
U R L <https://www.takayama.org/>



取締役 谷ツ田 佑介様
営業担当 高田 康輔様

株式会社シタラ興産

「SDGsが目指していることは、当社にすべて当てはまる。 やるからにはパイオニアとして一番を目指す。」

■ SDGsに取り組むきっかけ

SDGsは、各社や関係機関との交流の中で、知って、2018年頃取り組むことを決めました。廃棄物処理事業は、循環型社会、また低炭素型社会の中で、最後の砦としての役割を担うだけでなく、先進的な技術を取り入れて他産業との連携、共生を図り社会に溶け込んでいく必要があります。

その中で、SDGsの考え方や取組は、これからの廃棄物処理業者に大切な考え方をいくつも持っていると考えました。

■ SDGs活動のはじめの一步

2019年度に取組を始めました。実際に当社の取組がSDGsのどのような目標に合致しているかの確認をしました。

当社が行っている業務は、すべてSDGsに関わっています。マッピングして、今まで考えてきたこと、これからやりたいことがすべてSDGsにつながっていました。2020年から本格的に当社はSDGsに取り組む企業であることを社内外に示すようにしています。

■ SDGs活動の内容

SDGs活動は、当社の業務そのものです。

【廃棄物処理】

- ・廃棄物のRPF商品化
廃棄物の中でも燃料になるものは固形燃料として、販売してサーマルリサイクルに繋がっています。

- ・有機廃棄物の堆肥化

コンポスト工場から出された有機廃棄物は堆肥としてリサイクルを進めています。

- ・あらゆる廃棄物の分別化

廃棄物の分別は手間のかかる作業ですが、大型から小型まで分別の機械化を進めてきました。

- ・AIロボットの導入等作業効率化、災害の防止

分別においてはAIロボットも導入（アジア初）し、さらなる業務の作業の効率化、災害の防止に役立っています。



AIロボットが活躍

【効率的なエネルギーの利活用】

- ・太陽光パネルの設置
太陽光パネルを当社の敷地に設置し、自社のエネルギー使用を賄っています。

- ・運搬時のエコドライブの実現

運搬車や作業車については、急進進等を行わず、エコドライブを実践しています。

- ・冷暖房の設定温度の変更や加湿器の設置
事業所内の冷暖房は、省エネにつながる温度設定を行うと同時に、加湿器を設置する等、従業員の職場環境に配慮しています。

- ・照明のLED化の促進

事業所で使用する照明はLED化を進め、省エネを実現しています。

- ・廃棄物を燃料にした発電所の開設

2025年に竣工予定のサーマルリサイクル施設「レガリア」では、廃棄物を利用した発電を行います。出来た電力は、地域新電力「ふかやeパワー」に売電して、電力の地産地消を目指します。



「レガリア」竣工イメージ

【社会貢献活動】

- ・清掃活動などの地域活動

ゴミ処理場の粉塵に注意するのはもちろん周辺道路の清掃も欠かせず行い、地域環境にも配慮しています。



地域清掃の様子

- ・外国人労働者の地元支援

現在15名ほどの外国人労働者も仲間です。外国人労働者の出身国の出身地域に向けて、食糧支援等を継続的に行っています。

■ 会社概要

株式会社 シタラ興産

本社 埼玉県深谷市折之口 1788-1

創立 1977年(昭和52年)

代表取締役 設楽 竜也

URL : <https://www.shitara-kousan-group.co.jp/shitarakousan/>

■ SDGsを取り入れたメリット

- ・人材育成

当社は、国籍、性別関係なく、ポジションを与えて、積極的な人材の登用を行っています。福利厚生についても区別なく、同一の対応を図っています。SDGsについても経営トップから各ミーティング時に取組の状況を確認するとともに、適宜社員の勉強会を行っています。SDGsの取組が会社や業務に対する誇りにつながるものだと考えています。

- ・広報活動

SDGsは、社外に対する先進性や明日に向かってチャレンジしていく経営理念の実現につながっています。SDGsに取り組むことで、広報活動だけでなく、環境に対する考え方の体現した営業活動にもつながると考えています。

■ SDGsを定着させるための施策

社外に向かっての広報活動と社内に向けての育成活動を両立させることが大切だと思います。社外に向けて広報すれば、社員や関係業者は意識せざるを得ないですし、社内への教育を行うツールとして、当社が行っている業務がどのような価値を持っているかを理解することができます。

人出不足はこれからも続きます。どのような人材も会社が一つのチームとして集えるように、取組を進めていきたいと思っています。



SDGs17の目標が掲げられたポールを本社前に設置

■ 他社へアドバイス 等

廃棄物処理が地域に愛される仕事になるように、努力を続けていきましょう。一社一社が取り組むことで、地域に愛され信頼される環境産業という業界のイメージアップを図りたいです。



株式会社クワバラ・パンぷキン

代表取締役社長 桑原 幹夫様

「SDGsへのチャレンジは経営方針です。 木材チップ製造を通じて、木質バイオマスをリードします。」

■ SDGsに取り組むきっかけ

SDGsを知ったのはこの数年のことです。業界団体やマスコミを通じて、情報を収集してきました。最初、SDGsについては、ISOではありませんが、何らかの経営の流行的なものかと思っていました。しかし、よく勉強してみると、当社がやっている業務そのもの。これからの環境社会に必要な取組が記述されていることがわかりました。単なる流行では終わらないと考えています。

そして、企業経営にとって当然ともいえる収益拡大にも大きく影響与えると思っています。

■ SDGs活動のはじめの一歩

本格的に動き出したのは、今年度からです。今期の経営方針として「更なる成長へのチャレンジ」を掲げました。その中にある6つのミッションのうち1つを「SDGsへのチャレンジ」としました。まずは経営方針として掲げて、取り組んでいます。

経営方針とする前に、まずは当社が行っていることをマッピングしました。当社の事業がどれだけSDGsの取組と直結しているかを理解でき、今までやってきたことが自信になるプロセスです。

■ SDGs活動の内容

【リサイクル事業】

・木くず

木造建築物の廃材や街にある木々の剪定枝のリサイクルを行っています。分別の上で、チップ化してバイオマス発電所の発電燃料や、パーティクルボードの原料になります。

当社のリサイクルにおける祖業とも言える業務です。昭和60年以後一貫して木くずのリサイクルに取り組んできました。昨年新設した川口ウッドリサイクルをはじめリサイクル処理を求める2つの自治体と組んで一般廃棄物も再生を行っています。

・がれき類

コンクリートからは、破碎してから、再生骨材として道路等の路盤材として再生を図っています。

・廃プラスチック類

廃プラスチック類は、RPF化して、石炭などの化石燃料の代替として利用されています。これらの取組によって、埋立・焼却量の減少、資源化の促進、CO2の削減に努めています。

・あらゆる廃棄物の分別化

当社は廃棄物の中間処理だけでなく、最終処分まで行っています。現在2つ目の最終処分場を使っていますが、約123,000m³の埋立容量の残り4割を切りました。

当社から埋立するものをできるだけ減らすことは、環境にとっても大切なことです。少しでも最終処分場を長く使うことができるように、徹底した分別、減量、減容に取り組んでいます。



那須塩原市・戸田安定型最終処分場

【効率的なエネルギーの利活用】

・収集運搬車両の効率的な利用

収集した産業廃棄物は、約50台の車両によって、運搬しています。現場条件、品目、量等を考慮して、効率的な車両を配車しています。定期的に車両を入れ替え、省エネルギーの高い車両の導入に努めています。



4トンテナ車

・運搬時のエコドライブの実現

運搬車は、エコドライブを実践しています。急発進や急ブレーキは環境に負荷も与えるものです。

・冷暖房の設定温度の変更や加湿器の設置
事業所内の冷暖房は、適切な温度設定を行って地球環境と職場環境に配慮しています。

■ 会社概要

株式会社 クワバラ・パンぷキン

本社 埼玉県さいたま市中央区本町西4-11-10

創立 1969年(昭和44年) 創業 1948年(昭和23年)

代表取締役社長 桑原 幹夫

URL : <https://k-pumpkin.co.jp/>

■ SDGsを取り入れたメリット

・人材育成

当社の会社業務への深い理解のためにSDGsを活用しています。例えば、解体工事を行う場合でも、産業廃棄物の処理を単に価格の有利不利を優先しないことが大切です。

まずは3Rを考え、廃棄しないで済むにはどうすれば良いかを考え、その上で、再利用を考える。次にリサイクルして再生利用を図っていきます。当社が収益になる部分は再利用や再生利用ですが、それだけではいけないのです。SDGsの観点から業務を見直すことが、これから大切になっていきます。

・取引先への周知

SDGsに取り組んでいることを見積書等に記載し、取引先に知ってもらうことで、「顧客から選ばれる企業」を目指すきっかけになると考えています。

■ SDGsを定着させるための施策

SDGsに限らず、全社員に取組を定着することは簡単ではありません。当社では事業部別に、理解度テストを定期的に実施しています。

現在はこのテストの中でSDGsの基本的な理解を問うています。

部長や所長にSDGsの展開責任を求めています。各従業員に知識の定着を図り、実際の業務への活用を進めていくことで、SDGsの取組が自然なものにしていきます。



業務理解度テスト (環境事業部版)

■ 他社へアドバイス 等

SDGsの取組は簡単なことではありませんが、私たちの業務はSDGsにつながっています。まずは1歩踏み出してほしいと思っています。